

産業成長戦略の上半期の進捗状況等(別冊)

| | | |
|--------------------|-------|---|
| ・働き方改革の推進 | | 1 |
| ・自然・体験型観光キャンペーンの推進 | | 2 |
| ・地域産業クラスターの進捗状況等 | | 6 |

働き方改革実践への支援

●高知県働き方改革推進支援センターの設置(H30.4.2～)

- ・ワンストップ相談の実施(8月末現在相談件数:152件)
 - ▶企業の個別相談に対応するため労務管理等の専門家1名が常駐
 - ▶個別企業を訪問する労務管理等の専門家を3名配置(8月末訪問件数:148件)

個別訪問や相談会での主な相談内容

時間外労働の削減、就業規則(年次有給休暇等)の見直し、働き方改革で活用できる国の助成金について など

- ・事業者向けセミナー・出張相談会(8月末現在開催回数:26回)
 - ▶働き方改革に向けた取組の必要性等への商工会、商工会議所会員への理解促進
- ・経営者協会等各種団体、市町村訪問(8月末現在訪問件数:119件)
 - ▶働き方改革に向けた取組の必要性等について関係者への理解促進

●働き方改革のセミナー等の開催

- ▶大規模セミナー【9/26(四万十市)・27(高知市)】
 - ・働き方改革に向けた取組の必要性についての基調講演や事業者の改善事例紹介を通して広く県内企業への理解促進
- ▶小規模セミナー【8/22(室戸市)～随時 県内10カ所】
 - ・数社の企業を対象に働き方改革に向けた具体的な取組手法とプロセスを習得
- ▶ジョブカフェこうちによるセミナー
 - ・新入社員向け定着支援セミナー(6月3会場88名)
 - ・企業向け人材確保・育成セミナー(7月3会場87名)

●ワークライフバランス推進企業認証制度の普及啓発【H30目標認証数:300社(9/1現在:200社)】

- ▶健康経営に取り組むことを宣言(健康企業宣言)した事業所(157事業所)への訪問活動を展開
- ▶働きながら子育てしやすい職場環境づくりを宣言(育児休暇・育児休業取得促進宣言)した企業(302企業等)への訪問活動を展開

●ものづくり企業の事業戦略と連動した企業支援

※事業戦略策定支援 H30目標:着手50社、完成50社+PDCA

- ▶毎月月末の事業戦略支援会議を経て事業戦略チームと連携し、働き方改革推進支援センターの社労士が企業訪問

●中小企業の経営計画と連動した企業支援

※経営計画策定支援 H30目標:累計1,632件

- ▶毎月の経営コーディネーターミーティングを経て商工会・商工会議所の経営指導員と連携し働き方改革推進支援センターの社労士が企業訪問

- 国(中小企業庁)のものづくり補助金の活用(H30:一次募集採択71件)
- 民間資金を活用したパッケージ支援(補助金+融資制度)
- 国(厚生労働省)の助成金の活用

●生産性向上に向けた人材育成の養成講座

- ▶「技術者養成」 33講座(定員:導入210名、基礎180名、応用200名)
- ▶「中核人材養成」 3回(定員:各15名)

●その他

- ▶セグメント別セミナー(事業戦略)
- ▶かみわざひとづくり事業セミナー

企業支援

高知で、誰もが、いきいきと働くことができる職場環境
人材不足の解消・労働生産性の向上

高知県働き方改革推進会議

(事務局:高知労働局)

総会:年1~2回、幹事会:年3回程度

構成団体:国、県、連合高知、経営者協会、商工会議所連合会、商工会連合会、中小企業団体中央会、金融機関

※構成員がそれぞれの立場で、県内の働き方改革の機運を醸成すると共に、互いの取り組みを共有、協力し合い、官民挙げての取り組みに繋げる

庁内連携推進会議

H30.8~(2ヶ月に1回程度) ■メンバー:各課の課長補佐、チーフ級



各分野で働き方改革を実践

今後の取り組み

- ・社会保険労務士による継続的な企業支援(規程類の整備に向けた支援、助成金の周知と活用への助言、労働法制の改正内容やその影響等の周知等)
- ・ワーク・ライフ・バランス推進企業認証制度の新たな認証部門(年次有給休暇取得促進、女性活躍など)の周知
- ・働き方改革セミナー等の開催(働き方改革の理解、労働法制の改正内容やその影響等の周知、成功事例の紹介)
- ・高知県働き方改革推進会議(年次有給休暇取得促進キャンペーンの実施及び働き方改革の周知や助成金制度の紹介パンフレットの作成)

働き方改革推進支援センター

自然・体験型観光キャンペーンの展開イメージ

背景

- ・2020年オリ・パラ東京大会に向け、全国的にスポーツやこれに関連するアクティビティに対する関心が高まる。
- ・越知町はじめ県内各地において全国トップクラスのアウトドアメーカーが監修するアウトドア拠点が整備されるとともに、牧野植物園のリニューアルや足摺海洋館の建て替えなど、自然体験やアクティビティの基盤が整う。

目的

- ・「歴史資源」や「食」に並ぶ本県の強みである「自然」を生かし、**新たな観光資源を創出**
- ・自然・体験型観光は、**中山間地域の振興に直結**

高知県の強みを生かした新たな観光キャンペーンの展開

基本方針 「歴史文化」と「食」の観光資源に加え、もう1つの強みである「自然・体験」をさらに磨き上げ、観光キャンペーンを展開する

自然を生かして外貨を稼ぐ！

■ 磨き上げ等による基盤整備

ハード・ソフト両面で財政的支援
 拡 観光拠点等整備事業費補助金

自然景観

清流・沈下橋、滝・渓谷、山岳、高原、山村・棚田、海岸線、太平洋 など

Point 新たな経済効果を生む仕組みづくり

- 磨き上げ
- 観光クラスター形成
- 基本構想の作成

体験・滞在型観光施設、体験プログラム

キャンプ場、工芸体験、カフェ、ラフティング、マリアクティビティ、ロングトレイル、生活文化、伝統芸能 など

Point 新たな経済効果を生む仕組みづくり

- 磨き上げ
- 事業戦略の作成、事業者間連携

より力強い推進力を得るために!! (市町村とのコラボ)

■ 民間活力の導入 (専門的知見やノウハウの活用)

新 民間活力導入の推進 (観光拠点等需要調査事業)

拡 基本構想の作成支援、アドバイザーの活用 (観光拠点等整備事業費補助金)

■ 自然・体験型観光のセールス&プロモーション

◆ 維新博会期中から自然・体験情報も徐々に発信

■ 旅行商品化

団体・個人向け商品として旅行会社への売り込み

■ 情報発信・PR・販売

全国の販売網での発信・販売

アウトドア誌等のメディアへの露出

オンライン旅行エージェント(WEB型)が扱う商品

コンベンション協会・広域観光組織が掘り起こした素材

特設ウェブサイトでの発信

予約販売

Point 新資源の創出

付加価値向上

魅力向上

消費拡大

多言語対応

顧客満足度のフィードバック

全体を下支え

■ 事業者の強化と観光人材の育成

・土佐の観光創生塾による一貫支援 ・広域観光組織の機能強化 ・外国人等の観光客におもてなしできる人材の育成支援 ・顧客満足度の向上に向けた受け入れ人材の育成支援

整ってきた歴史の観光基盤

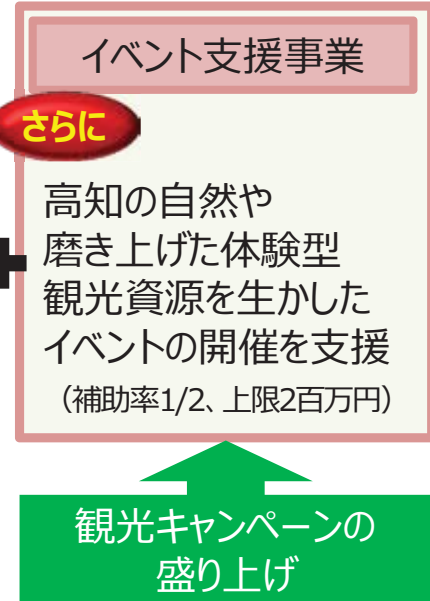
自然・体験型観光の推進

整ってきた食の観光基盤

本県観光をもう一段高いステージへ！中山間振興に寄与！

自然・体験型観光資源の磨き上げに係る支援制度

拡充する支援制度



※ [4定条件] 定時、定量、定品質、定価格

※ [+a] 4定条件に加え、web予約・情報発信力・事業者間連携の促進などの顧客満足度の向上等につながる取組を加えたもの

観光拠点等整備事業費補助金 拡充

I. 自然景観等観光基盤整備事業

ポイント! 新たな観光資源の創出に係る経費は補助率2/3

II. 体験型観光資源強化事業

核となる自然景観・ビュースポットの整備 (補助率1/2、上限5千万円、条件付き3億円)

景観等の基盤整備とあわせて一体的に支援

新たな経済効果を生み出す新資源の創出
~自然を生かして外貨を稼ぐ!~



体験・滞在型観光に向けた旅行商品に必要な施設や設備の新設・改修等

(補助率1/2、上限5千万円、条件付き3億円もしくは6億円)

観光クラスターの形成
クラスター構成メンバーのサービスの充実と周遊観光のPR (補助率2/3、上限2千万円 ※ハード整備は1千万円)



体験プログラムの磨き上げや新たな観光商品の創出等

(補助率1/2、上限5千万円、条件付き3億円もしくは6億円)

民間の優れたノウハウを活用した外貨獲得のための戦略づくりを支援

III. 基本構想等作成支援事業

① 基本構想の作成またはアドバイザーの活用 (新たな経済効果を生み出す新資源の創出、専門的知見やノウハウの導入) (補助率2/3、上限5百万円)

観光商品の付加価値をUP!

② 新たな経済効果を生み出す新資源の創出に係る事業戦略の作成 (新たな資源の創出、4定条件の整備、事業者間連携等) (補助率定額、上限50万円)

さらなる観光消費の拡大

UP!!

自然・歴史・食を連動させた観光地づくりを推進

自然・体験型観光キャンペーンにおけるエリア毎の拠点・プログラムの整備（2019年上期）

| 2019年 | 幕末維新博 | | | | | | | | | |
|-------|--|---|------------------------|--|---|--|--|----|----|--|
| 予定 | 自然・体験型観光キャンペーン | | | | | | | | | |
| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | |
| 東部 | <p>New</p> <p>●伊尾木洞の観光案内施設（ガイド常駐）スタート</p> <p>●ゆずFes（中芸）※体験型博覧会</p> <p>●陶芸体験のバージョンアップ（当日焼き上がり）</p> <p>●2or3月 スタートイベント（実行委員会主催）</p> | | | | | <p>●グランピングやマリナクティビティもできるキャンプ場のスタート</p> | <p>●ライダーズインのスタート</p> <p>●イベント「むろとの日」</p> <p>●大型海上アスレチックのスタート</p> | | | |
| 中部 | | <p>●2/1 中央部でオープニングセレモニー（実行委員会主催）</p> <p>●牧野植物園の新たな園地のリニューアル</p> <p>●龍河洞リニューアル</p> <p>●高知龍馬マラソン（2/17）</p> <p>●体験型博覧会（佐川町）</p> <p>●2or3月 スタートイベント（実行委員会主催 ※本山町想定） さめうら荘（本山町） オープンとわかさぎ釣りスタート（大川村）</p> | <p>●公園遊歩道のリニューアル</p> | <p>●スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド（宮の前） グランドオープン（日ノ瀬既オープン）</p> <p>●仁淀川カヌー開き（いの町）</p> | | | <p>●土佐れいほく博のスタート</p> <p>●アウトドアの里(本山町)オープン</p> | | | |
| 西部 | | <p>●柏島の観光案内施設（情報発信・物販）オープン</p> <p>●フィッシング・イベント</p> <p>●スタートイベント（実行委員会主催）</p> | <p>●四万十・足摺チャレンジライド</p> | <p>●爪白キャンプ場（土佐清水市）リニューアルオープン</p> <p>●アクティビティのバージョンアップ（カヤック・SUP）</p> | <p>●四万十リバーフェスタ（四万十町） アクティビティのバージョンアップ</p> | | | | | |
| 磨き上げ | <p>New</p> <p>■2018年度の土佐の観光創生塾の塾生による四季に応じた旅行商品が順次販売される（旅行商品造成数：59件） SUP（東洋町）、リバーウォーク（野根川）、菓子製造体験（海辺の果樹園）、釣りいかだ（浦ノ内）、庭園ガイドツアー（牧野植物園）、グラスボートチャーター（竜串）等</p> <p>New</p> <p>■観光拠点等整備事業費補助金（拡充）・土佐の創生塾による磨き上げを通じた拠点プログラムの追加</p> <p>■龍馬パスポート事業における体験プログラムの参画と磨き上げ</p> | | | | | <p>■2019年度 土佐の観光創生塾のバージョンアップ</p> | | | | |

凡例
 「●」…二次・三次ワーキンググループ設置済
 「★」…クラスタープラン策定済
 「▽」…対象外

二次・三次WG設置済 15
 クラスタープラン策定済 14
 ※H30. 8現在

地域産業クラスターの進捗状況等①

農業① 四万十次世代モデルプロジェクト (四万十町) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定 (H29.1)
▼取組状況
 1次：前作で発生したホモブシス茎枯病障害株の調査とその対策についての勉強会を実施(4～6月:6回)
 H29年度:収量実績37.4 t /10a(目標比98%)
 春の農繁期の雇用確保について協議(5月～)
 2次：新たなトマト加工品の試作と絞り込み (4、5月)
 3次：商品化に向けたデザイン、PR方法や、ブランディング、販売方法などを検討 (6月～)
 新たな商品 (トマトカレー・ピューレ) の開発・販売 (2/7お披露目会)

▼課題
 ・次世代団地のトマト経営の安定、継続、労働力の確保、補完の仕組みづくり、培地・残さの有効活用
 ・ブランディングしたトマト加工品の販路販路拡大

【H30年度の取組状況と予定】
 1次：
 ・社員への病害対策研修会の実施
 ・早期定植 (6月下旬) により、9～10月の高単価の時期に出荷する計画
 ・トマト残さリサイクル事業の開始 (6月)
 ・種苗業者が施設 (7.8a) を増設予定

2次・3次：
 ・開発したトマト加工品のふるさと納税返礼品での展開や学校給食等での活用
 ・新たなトマト加工品の商品化 (県内食品メーカーとの連携を検討)
 ・商工会や観光協会との連携を推進

農業② 日高村トマト産地拡大プロジェクト (日高村) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定 (H29.1)
▼取組状況
 1次：トマト生産用地面積8.3ha→8.75ha
 ハウス建設事業の進捗確認 (随時)
 イチネン農園H29実績 83t/50a (目標99%)
 2次：加工施設建設に関する打合せ (わのわ会、日高村、JAコスモス)、村の駅「ひだか」運営協議
 3次：専門家を招致して、日高まるごとイタリアンプロジェクト全体構想に関する協議を実施
 オムライス街道実績 H29:82,905食 (前年119%)

▼課題
 ・新規就農者の確保、イチネン農園ハウスでの経営安定
 ・日高まるごとイタリアンプロジェクトの全体構想の作成

【H30年度の取組状況と予定】
 1次：
 ・イチネン農園の生産拡大(1.6ha、8月完成)
 ・JAトマト部会販売額 (H29.4～3) 430百万円
 ・就農希望者対応、担い手確保・育成方針の策定

2次・3次：
 ・日高わのわ会による新商品の開発 (シャーベットは「とまとすたんど」にて発売。トマトピューレ、トマトみその開発)
 ・ミニトマトの加工品の試作 (イチネン農園がOEM生産検討)
 ・オムライスをテーマに絵本コンクールを開催、238点の応募があり最優秀作品を7月に発売、PR
 ・オムライス販売数 (H30.4～5月) 11,905食 (前年比94%)
 ・日高まるごとイタリアンプロジェクト戦略策定 (9月3日第1回会議)

農業③ 南国市還元野菜プロジェクト (南国市) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定 (H29.3)
▼取組状況
 1次：次世代型ハウスの生産安定に関する協議を実施
 定植：ピーマン(8/29)、パプリカ(9/11)
 7月末収量：ピーマン 47.6t (目標比50%)、パプリカ 62.7t (目標比98%)
 2次：パプリカパウダー、ペーストの試作 (2か所)
 3次：還元野菜セット販売 H29実績2,245千円
 かざぐるま市、風の市に還元野菜コーナーを設置 (12月)

▼課題
 ・生産の核となる次世代型ハウスの経営の早期安定
 ・還元野菜生産者、品目の拡大
 ・還元野菜セット販売の受注方式の変更
 ・パプリカを活用したレシピの開発

【H30年度の取組状況と予定】
 1次：
 ・パプリカ栽培面積を32a→49a (1.5倍) へ拡充
 ・ピーマンは33a→16aに縮小
 ・パプリカの販売先の検討、労務管理スキルの向上

2次・3次：
 ・セット品目の充実、価格見直しによる還元野菜セットの販売強化
 ・H30年度のセット販売は秋・冬を予定
 ・直販所の還元野菜コーナーの拡充
 ・JAが新規整備予定のレストランでの利用検討
 ・「まるごと高知」でのパプリカの販売開始予定

農業④ 日本一のニラ産地拡大プロジェクト (香南市、香美市) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定 (H29.3)
▼取組状況
 1次：経営安定を目標に事業申請への支援
 新規就農・品目転換農家を対象にグリーンカレッジ 開催
 そぐりセンター整備に関する協議を実施
 ハウス整備 13戸:132a (うち新規4戸：59a、規模拡大7戸：70a)
 2次・3次：
 香南市農業活性化地域協議会ニラプロ部会
 外商部会の開催 (2次・3次WGの位置付け)

▼課題
 ・そぐりセンター設置場所の検討、委託ニーズの把握
 ・カットニラ (冷凍) の業務筋でのニーズ把握
 ・ニラプロジェクトの再強化
 ・2次・3次の取組内容の再構築
 ・香美市における2次・3次ワーキングの設立の検討

【H30年度の取組状況と予定】
 全体：
 ・H30.5月にプラン改訂、そぐりセンター整備計画の追加。H32年度以降に整備予定

1次：
 ・アンケート調査を実施 (6月、そぐりセンターを利用した：62%、113戸、規模拡大意向の農家：18%、32戸)

2次・3次：
 ・香南ニラプロ部会の開催 (7/18、地元小学校との食育での連携強化検討)
 ・小学校でのニラ栽培及びこども食堂への提供
 ・イベントへのニラメニューの出店

農業⑤ 日本一のナス産地拡大プロジェクト (安芸市) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定 (H29.3)
▼取組状況
 1次：ゆめファーム全農NEXTの定植 (H29.8/8～9)
 1作目収量：141t/ha(5月末目標比61%)
 土壌病害による収量減 (5月栽培終了)
 2次・3次：
 道の駅大山改修後の誘客策協議及びアドバイザー提案メニューの試食会の実施 (6/27)
 道の駅大山オーパ ン3/2新メニュー(ナス)提供予定
 あきナス6次産業化プロジェクト協議会 (仮称) 準備会の開催、安芸市内飲食店へのアンケートによるナスメニュー、仕入先の実態調査 (5/23、7/24)

▼課題
 ・全農の次世代ハウスにおける労力確保(パート等)
 ・道の駅大山での夏のテイクアウト商品の開発
 ・安芸産ナスが安芸市内に安定的に供給される仕組みが出来上がっていない

【H30年度の取組状況と予定】
 1次：
 ・平成31園芸年度に向けて116戸、12.3haに環境制御技術を導入。雇用対策として安芸市農福連携研究会を立ち上げ。次世代型ハウスの2作目定植 (H30.8/16,17)、50aを養液栽培

2次・3次：
 ・地域食材である「安芸ナス」の地域内での認知度を上げる取組を引き続き実施 (リーフレットの作成など)
 ・安芸市内ナス料理マップの作成・評価・修正
 ・道の駅大山での新メニュー開始 (7月よりラッシー・チャイ)、お土産品(ナス)開発(なすまん、なす餃子の商品化)

農業⑥ 嶺北畜産クラスターによる地域の活性化 (嶺北地域) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定 (H29.2)
▼取組状況
 1次：(株)いほく未来の土佐あかうし飼養頭数の増 (H28:176頭→H29:241頭)、土佐あかうし堆肥舎完成(7月)
 2次：食鳥処理・加工施設完成(8月)
 県版HACCP(第3ステージ)認証の取得(12月)
 3次：大川村PT産業振興部会(6月)及び販売に関する協議(5月)、さめうら荘建て替え工事着手(10月)
 カヌーのまち嶺北推進協議会設立(5月)

▼課題
 ・さらなる増頭対策と堆肥の活用
 ・円滑な食鳥処理体制の早期構築及びブランドの再構築 (首都圏等における営業活動の強化)による販売促進
 ・カヌーに係る施設整備及び環境整備

【H30年度の取組状況と予定】
 1～3次：
 ・大川村PT産業振興部会(5月、8月)

1次：
 ・土佐あかうし、大川黒牛、土佐はちきん地鶏の増頭・増羽
 ・さらなる増頭・増羽、堆肥の活用方法検討
 2次：
 ・食鳥処理・加工施設の本格稼働(4月)
 ・食鳥処理体制の早期構築支援の実施
 3次：
 ・さめうら湖協議会(6月)、全中カヌー大会での合宿誘致営業(7月)
 ・土佐はちきん地鶏の販売体制強化(流通アドバイザー等の導入)、さめうら荘周辺整備基本計画の策定、さめうら荘プレオープン(12月)

農業⑦ 四万十ポークブランド推進プロジェクト (四万十町) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定 (H27.3)
▼取組状況
 1次：新設及び補改修した豚舎による出荷頭数の増等
 2次：四国DFが県版HACCPステージ2取得 (H30.1)
 " 新商品「豚まん」販売開始 (H29.10)
 3次：加工・直販所及び飲食店売上高：83,050千円 (H30.3末)
 雇用者数：1人(H27) → 27人(H29)

▼課題
 ・畜舎の老朽化、環境問題への対応
 ・豚加工品の安定生産と販路拡大

【H30年度の取組状況と予定】
 1次：
 ・防疫研修会の開催、農場HACCPの推進
 ・高能力優良種豚の導入・増頭による出荷頭数の増頭
 ・豚の疾病対策強化、事故率の低減
 ・平野共同畜産に養豚糞コンポスト導入(H31.3末)

2次・3次：
 ・四万十ポークブランド推進協議会総会を開催
 ・四国デュロックファームが新商品「無添加ハンバーグ」販売開始(6月)
 ・四万十町の地域資源を活用した加工品の生産ライン拡大に向けた計画作成 (関連：高幡地域AP13)
 ・四万十ポークの精肉・加工品をふるさと納税返礼品として県内外へ発送
 ・イベントや商談会等へ参加し、四万十ポークを周知

農業⑧ いの町生姜生産・販売拡大プロジェクト (いの町) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定 (H29.1)
▼取組状況
 1次：生姜生産拡大2,012a (91a増)
 産地提案書を作成 (2名が研修開始)
 2次：いの町産生姜で生改Gが加工品開発に着手し、3品 (プリン・佃煮・カキ)をレシピ化。木の香でパウンドケーキ等を試作。同原料で南国SAでジンジャーカレーをメニュー化。「鬼金棒」商品化
 3次：2次・3次WG構成メンバー決定、生姜スイーツを8月から6店舗で販売。kami祭りでの生姜での出店。かみのひなまつりでの生姜加工品の展示。町内生姜加工品のリスト化

▼課題
 ・町内での商品提供・販売の強化
 ・生姜スイーツのPR強化及び参加店舗の販路拡大

【H30年度の取組状況と予定】
 1次：
 ・栽培管理等の指導。ショウガ生産拡大の候補地選定の推進。研修生に対する定期的な勉強会の開催

2次・3次：
 ・生姜焼き街道のスタンラリーと生姜スイーツの連携強化
 ・いの町町中心市街地活性化協議会を立ち上げ、検討を開始 (8月)
 ・9月にイベント「神楽と鮎と酒に酔うin仁淀ブルー (仁淀川波川公園)」にてショウガPR予定

農業⑨ 四万十の栗プロジェクト (四万十町) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定 (H29.1)
▼取組状況
 1次：栗再生プロジェクト推進協議会の開催
 ・剪定技術者による講習会を実施(6月)
 H29出荷量:24,211kg(前年比131%)目標達成
 新改植本数1,485本(十和1,007本、大正478本)
 2次：クレーン加工施設の完成 (9月)
 加工アドバイザーによる加工商品化に向けた指導

▼課題
 ・生産者が栗の剪定技術への理解を深め、剪定技術の更なる向上を図る必要がある
 ・栗加工品販売先の確保

【H30年度の取組状況と予定】
 1次：
 ・特産栗を生産する農家 (意欲的農家) 対象の選果講習、剪定講習会、剪定技術者による現地検討会の開催
 ・8/3 現地検討会実施。窪川地区での栗栽培開始が決定 (1.3ha、しまんと新一次産業)
 ・四万十町の次世代団地の残さを堆肥化し、栗の生産に活用

2次・3次：
 ・WGの定期開催、観光分野との連携を推進
 ・外商に向け、栗ペーストの品質向上のため、加工方法についてアドバイザーを招聘 (8/9、10)

農業⑩ 南国市農業クラスタープロジェクト (ニラ) (南国市) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定 (H30.8)
 1次：H29.7 清水建設・農林中金・県との連携協定を締結 (清水建設に、ニラのそぐりセンターの整備運営、生産に参画する意向があるため、関係機関と協議)

▼課題
 ・園芸団地用地の確保
 ・ニラそぐりセンターの候補地選定
 ・2次3次の関連産業の集積

【H30年度の今後の取組状況と予定】
 1次：
 ・そぐりセンター関係者による協議。そぐりセンター施設予定地の視察。生産事業に関する協議。
 ・そぐり機1ライン (そぐり機1台+計量結束機1台)による実証試験 (7/3～)
 ・ニラ生産計画策定の支援
 ・園芸団地用地の整備 (南国市植田)

2次・3次：
 ・プロジェクトチーム会開催による今後の取り組みの方向性の確認
 ・JAが新規整備予定のレストランにて女性部が開発したニラメニューを提供予定。
 ・そぐりセンターから出る素材の活用検討 (地元食品メーカーと連携)

地域産業クラスターの進捗状況等②

林業① 林業・木材産業クラスタープロジェクト(県内一円) ▽▽

【H29年度の取組状況と課題】

- ▼取組状況
- 1次：全国トップの林地台帳の運用開始、事業戦略づくりの普及啓発のためのセミナー開催、事業戦略づくりの支援開始(2事業体)、林業学校による担い手の育成(20人卒業)、加工施設における新規雇用者数(15人)
 - 2次：CLTパネル工場の立地に向けた情報収集、低層非住宅の木造化等に向けた新製品の開発と改良

- ▼課題
- ・事業戦略に係る経営者と従業員との意識の共有
 - ・乾燥材及び強度の明確な県産製材品の安定供給
 - ・CLT等の普及、建築物のコストダウン、建築士の育成

【H30年度の取組状況と予定】

- 1次：
 - ・コンテナ苗を活用した皆伐・再造林の一貫作業システムの検証
 - ・コンテナ苗生産推進のための技術支援、勉強会(1回)
 - ・事業戦略の実践(H29策定2社)及び新規策定(3社)への支援開始(4月～)
 - ・林業大学校による担い手の育成(基礎22人、専攻18人)
- 2次：
 - ・人工乾燥材・JAS製品の生産拡大に向けた県内製材工場との協議及び事業化の検討
 - ・TOSAZAIセンターを中心に県外流通拠点や県外パートナー企業との連携を強化(4月～県外93社、県内66社の事業体を訪問)
 - ・CLT建築物(完成4棟、構造・完成研修会4回)をはじめ非住宅建築物の木造化等の推進

林業② 嶺北地域の林業クラスターによる地域の活性化(嶺北地域) ●

【H29年度の取組状況と課題】

- ▼取組状況
- 1次：森林組合ほか素材生産事業体(10事業体)との協議・支援、西峯スギコンテナ苗の出荷(12,500本)
 - 2次：ストックヤード造成工事の継続
 - 3次：商談会・フェアへの出席
集落活動センターいしはらの里における林業研修の実施(10月、12月、2月)
- 1～3次：嶺北広域原木安定供給協議会開催(2回)

- ▼課題
- ・原木の安定供給
 - ・スギ苗の継続的な販売先の確保と栽培技術の向上
 - ・嶺北材及び木工製品の販路拡大

【H30年度の取組状況と予定】

- 1～3次：
 - ・嶺北広域原木安定供給協議会開催(5月)
 - ・嶺北広域原木安定供給協議会による素材流通等のICT化に伴う作業部会の運営、西峯スギコンテナ苗栽培管理勉強会(9月)
- 1次：
 - ・森林組合ほか素材生産事業体(10事業体)との協議・支援、西峯育苗ハウス増棟(5月)及びスギコンテナ苗移植(5月)
- 2次：
 - ・ストックヤード造成工事の継続
- 3次：
 - ・ぼうむ合同会社木工製品の販促EXPO(東京)出展(7月)及びかがわ家博出展(8月)
 - ・れいほくスケルトンの四国内(香川県中心)における販売活動(ウッヂフェスティバル/10月)

林業③ 佐川町で展開する自伐型林業での木材産業クラスター(佐川町) ●

【H29年度の取組状況と課題】

- ▼取組状況
- 1次：地域おこし協力隊(自伐)の採用(4人)、町民・協力隊向け自伐型林業研修会の実施、山林の集約化(約112ha)
 - 2次：地域おこし協力隊(ものづくり関連)の採用(3人)、ものづくりの拠点「さかわ発明ラボ」移転正式オープン、オープンラボや放課後発明クラブの開催、商品開発・販売等
 - 3次：道の駅検討委員会の開催

- ▼課題
- ・山林の集約化
 - ・自伐型林業のビジネスモデルの構築

【H30年度の取組状況と予定】

- 1次：
 - ・地域おこし協力隊の採用(2名)
 - ・地域おこし協力隊等で構成する任意団体への町事業委託
 - ・森林長期施業管理契約締結による集約化の推進
 - ・地域おこし協力隊の自立化に向けた協議
- 2次・3次：
 - ・地域おこし協力隊(ものづくり関連)の採用(4名)
 - ・学校教育、集落活動センター等と連携し、町産材を活用したWS等を開催
 - ・JR客車を活用した観光(物販)施設設置の検討
 - ・さかわ発明ラボの運営体制構築の検討

水産業① 土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト(土佐清水市) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定(H29.4)

- ▼取組状況
- 全体：「土佐清水メジカ産業プロジェクト推進協議会」が発足、クラスタープランを策定
- 1次：新規就業者支援事業により5名が独立して就業、担い手育成団体(元気プロジェクト)で2名が研修中
 - 2次：冷凍保管施設の実施設設計が完了、本体工事に水産庁の「水産業競争力強化緊急施設整備事業」導入決定、残渣加工施設の基本計画策定(施設規模等)
 - 3次：「宗田節ロード2018」を展開、宗田節ロゴの作成、各種イベントで宗田節をPR

- ▼課題
- ・担い手の確保
 - ・宗田節を活用した新商品開発

【H30年度の取組状況と予定】

- 全体：
 - ・クラスタープランの更新(5月)
- 1次：
 - ・「土佐清水メジカ需給調整対策協議会」の開催(5月)、担い手の確保のため長期研修の継続(新規就業者支援事業等で3名が研修中)
 - 2次：
 - ・**冷凍保管施設の本体工事に着手(7月)**、**残渣加工施設の実施設設計に着手(6月)**、宗田節加工業者への高知県版HACCP取得に向けた説明会の開催(7月)
 - 3次：
 - ・「第50回宗田節産地入札直売会及び宗田節祭り」の開催(4月)、高知龍馬空港での宗田節PR(8月)
 - ・「宗田節ロード」の取り組みを継続、**宗田節を活用した新商品の開発**

水産業② 宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト(宿毛市、大月町) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定(H29.3)

- ▼取組状況
- 全体：「宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト推進協議会」がクラスタープランを更新
- 1次：クロマグロ人工種苗生産で、合計7,700尾を生産、うち2,100尾を養殖業者へ試験出荷
 - 2次：道水グループが宿毛市で養殖クロマグロ、ブリ、マダイの加工を行う(株)高知道水を設立、加工施設の実施設設計が完了
 - 3次：大月町で養殖クロマグロのプロモーション活動を行う「マグロのまち大月推進協議会」が発足、統一ブランド「大月産本マグロ」のロゴやキャッチコピーを作成したほか、マグロ祭りや、モニターツアーを開催

- ▼課題
- ・生産拡大に向けた人工種苗の導入
 - ・安定的な販路の確保・加工施設従業員の確保

【H30年度の取組状況と予定】

- 1次：
 - ・クロマグロ受精卵等配付検討会の開催(5月)
 - ・クロマグロの人工種苗生産、出荷
- 2次：
 - ・**高知道水が加工施設の整備に着手(5月)**、土佐西南丸が輸出に対応したHACCP認証の取得に向けコンサルティングを受講(8月)
- 3次：
 - ・「マグロのまち大月推進協議会」が地域のイベントで養殖クロマグロをPR
 - ・高知県養殖魚輸出促進協議会の会員企業が海外(シンガポール、タイ、ベトナム、香港)の見本市に出展(4～9月)
 - ・県外飲食店、百貨店での養殖クロマグロPR、マグロ祭りの開催、モニターツアーの実施

水産業③ 宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト(土佐市、須崎市)

【H29年度の取組状況と課題】

- ▼取組状況
- 1次：アサリ垂下式養殖の採算性検討を開始
潮干狩り復活に向け大規模被せ網を実施
 - 2次：浦ノ内住民自主組織が観光客向け弁当を試作
 - 3次：浦ノ内釣りいかだ渡船振興会が釣筏の利用拡大に向けて小中学校への営業や須崎市観光協会との協議を実施

- ▼課題
- ・土佐市及び須崎市の連携強化
 - ・渚泊事業の円滑かつ効果的な実施

【H30年度の取組状況と予定】

- 全体：
 - ・農山漁村振興交付金の承認、土佐市プラン案の推進
 - ・須崎市プラン案の選定
- 1次：
 - ・アサリ資源の回復に向けたモニタリング、被せ網等を実施
 - ・アサリ垂下式養殖の採算性を検証
 - ・**潮干狩りの再開に向け天皇州の一部を試験開放**
 - 2次：
 - ・高知海洋高校が地元水産物の消費拡大を目的としたウルメイワシの加工品開発や試食会を実施
 - ・ウルメイワシ加工品の観光商材としての活用の検討
 - ・アサリの食害種(アカエイ等)の加工品の開発
 - 3次：
 - ・浦ノ内湾釣りいかだ渡船振興会が須崎市観光協会と連携した教育旅行の受入れを実施
 - ・渚泊事業を活用した観光事業のブラッシュアップ
 - ・釣筏の旅行商品化と周辺観光との連携
 - ・**湾内のマリンスポーツ施設と市内飲食業者等との連携強化**

食品加工① 加工・業務用野菜の産地化プロジェクト(県内一円)

【H29年度の取組状況と課題】

- ▼取組状況
- 1次：試験栽培及び試験出荷・販売を実施
 - ・ジャガイモ:7.5a栽培、340kg出荷
 - ・キャベツ :20a栽培、気候の影響で出荷できず県内での中間事業者体制を整備
(JA出荷場→園芸運→県内市場→県内一次加工事業者)
「加工・業務用野菜生産基盤強化事業」導入による加工用青ネギの生産者確保と生産量拡大(土佐園芸生産組合)
 - 2次：中間事業者及び一次加工業者の視察調査の実施、販売先となる企業の掘り起こし(企業訪問の実施)

- ▼課題
- ・水田利用再編対策と合わせた生産地の拡大・生産者の確保
 - ・品種の選定、栽培実証(試験栽培)
 - ・露地野菜の生産技術の向上
 - ・県内量販店等での県産野菜利用の促進

【H30年度の取組状況と予定】

- 全体：
 - ・加工・業務用野菜の産地化セミナー(1回目)の開催(7/5、58名参加) ※2回目を2月に開催予定
- 1次：
 - ・本年度試験栽培(品種・作型の検討)
キャベツ(30a)、ワサビ(20a)、ネギ(100a)
 - ・試験栽培取組組織のさらなる掘り起こしと生産・出荷
 - ・新たな取組品目と生産出荷体制の検討
 - ・先進地視察による情報収集
 - 2次、3次：
 - ・県内量販店及び一次加工事業者への加工用野菜の取扱量アンケートを実施予定(10月～)

食品加工② 株式会社フードプラン、仁淀川町等を中心としたカット野菜事業クラスター(仁淀川町) ●★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定(H29.2)

- ▼取組状況
- 1次：自社原料生産体制(営農・法人化等)を検討
 - 2次：新工場の整備(3月完成)
 - ・新工場整備にかかる関係者協議の開催(毎月)
 - ・新たな野菜加工品づくりに向けた製造用機器の整備
 - 3次：「おでん」のブランド化による入込観光客の増とあわせ、自社製造のおでんパック開発等を推進

- ▼課題
- ・原材料となる野菜の産地形成の促進
 - ・開発中であるドレッシングの販路開拓
 - ・「おでん」の販売、地域の誘客へと繋げる仕組みづくり

【H30年度の取組状況と予定】

- 1次：
 - ・産地形成に向けた仕組みづくりを検討
 - ・ハウスを活用したネギの育苗を検討
 - ・新規就農者も含めた担い手の確保に向けた取り組みへの着手
- 2次：
 - ・県内外の量販店への販路拡大
 - ・量販店との取引拡大(カットネギ)
 - ・**野菜の残さを活用したドレッシングの商品化**及び販路開拓に向けた商談会への出席等
- 3次：
 - ・町内イベントでの「おでん」の提供による観光振興の仕組みづくりの検討

その他① 奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター(奈半利町)

【H29年度の取組状況と課題】

- ▼取組状況
- 全体：集落活動センターの運営主体(一社)なはりの郷の経営計画書を策定(H30.2)
- 1次：農作業受託、不耕作地の解消、施設栽培(ナス)開始
 - 2次：農水産加工施設(奈半利のおかって・加領郷魚舎)の売上高(H29)：58,209千円
 - 3次：物産館無花果の管理運営
観光振興事業(観光ガイドブック作成等)の実施

- ▼課題
- ・農業部門における栽培技術の向上
 - ・加工グループの人材確保、販路拡大
 - ・通販サイトの認知度向上

【H30年度の取組状況と予定】

- 1次：
 - ・農業関係部門協議(5回)
 - ・農畜産物集出荷センターの運営開始(H30.4～)
 - ・農作業受託作業(畦塗り、田植等：39件)、不耕作地解消(ジャガイモ、キュウリ、イチジク、水稻等の栽培)、施設栽培の継続、新規就農者の育成、農作業受託・不耕作地解消事業・施設園芸の継続
- 2次・3次：
 - ・新たな販路拡大のための既存商品の磨き上げ及び新商品の開発、観光パンフレットの作成
 - ・加工グループによる新商品開発、イベント出店
 - ・観光部会の開催(3回)

その他② 竹資源の活用による中山間地域の新たな産業の創出(高知市土佐山地区)★

【H29年度の取組状況と課題】※プラン策定(H30.2)

- ▼取組状況
- 1次：竹材の集荷(同)高知竹材センター)
竹持込参加登録者数(団体含)H27:0→H29:23
 - 2次：自動車用竹ハンドル素材、集材材、ブラシ用柄等竹製品の加工及び商品開発(1次加工(同)高知竹材センター、2次加工(株)コスモ工房)
 - 3次：製品に応じた販路の開拓(株)コスモ工房)

- ▼課題
- ・自動車のモデルチェンジによる竹ハンドルの需要減への対応
 - ・二次加工業者への供給量増に向けた供給体制の強化
 - ・竹材の新たな分野への販路開拓

【H30年度の今後の取組予定】

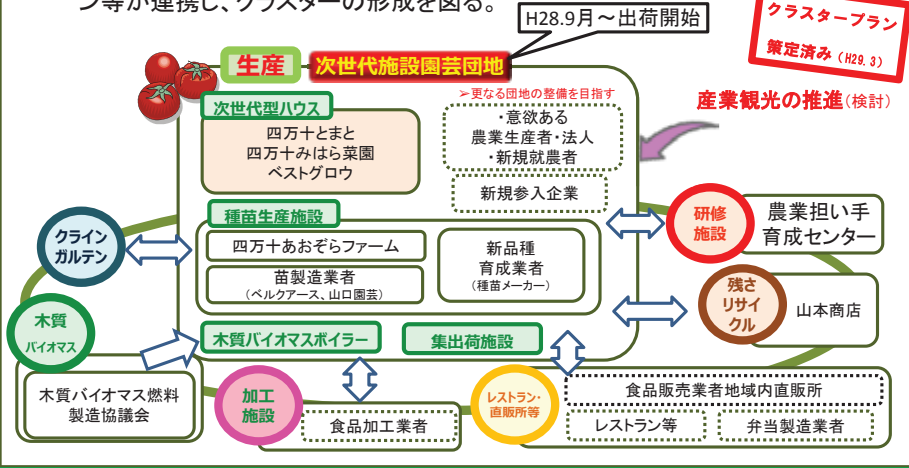
- 1次：
 - ・竹材を用いた新たな製品需要の掘り起こし(竹粉、千両栽培用竹よしず)及び販売促進活動の実施
- 2次・3次：
 - ・ブラシ加工業務等の維持拡大に向けたマンパワーの確保
 - ・**楽器メーカーへのスレット製造材料の納品開始(H30.5月～)**
 - ・需要減となる竹ハンドルへの部材供給から、引き続き需要が見込まれるブラシ材へのシフトなどをふまえた事業戦略の策定
 - ・竹ブラシの生産量拡大や新たな部材・製品の生産に向けた加工機械等の導入検討

地域産業クラスターの形成（展開図） ①

【農業】

① 四万十次世代モデルプロジェクト（四万十町）

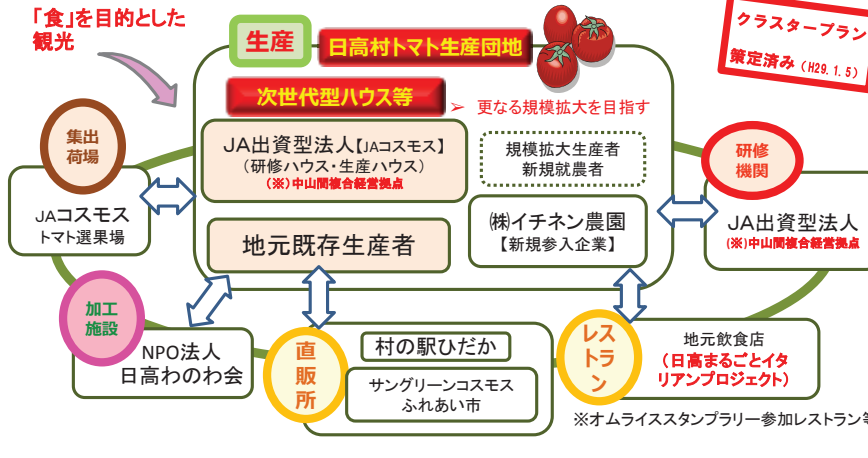
・次世代施設園芸団地でのトマト生産を核として、バイオマス供給施設、種苗供給施設、農産品加工・販売業者、残さリサイクル業者地元レストラン等が連携し、クラスターの形成を図る。



② 日高村トマト産地拡大プロジェクト（日高村）

・日高トマト産地での拡大の取り組みを核として、中山間複合経営拠点（※）の整備とも併せ、関連するJA出荷場、農産品加工施設、直販所、地元レストラン等が連携し、クラスターの形成を図る。

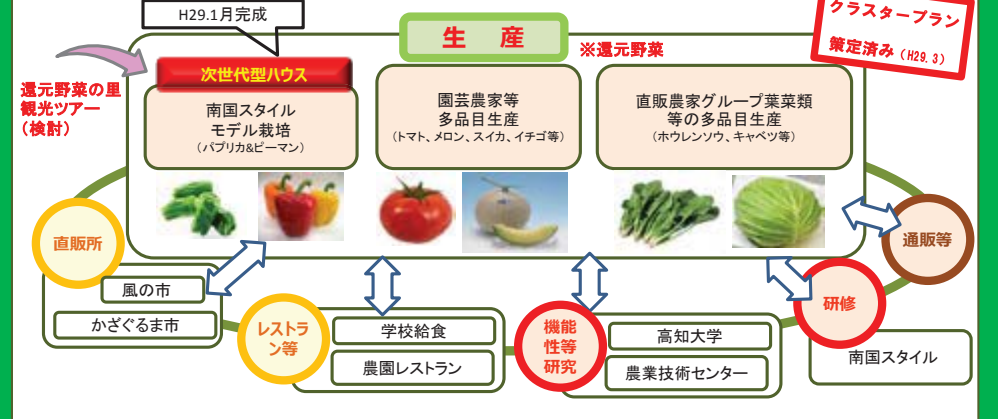
（※）出資型法人等が、高収益の施設園芸や中山間地域に適した農産物の生産、作業受託による地域農業の維持活動等、複合経営を行い、中山間地域の農業の競争力を高め、支える仕組み



③ 南国市還元野菜プロジェクト（南国市）

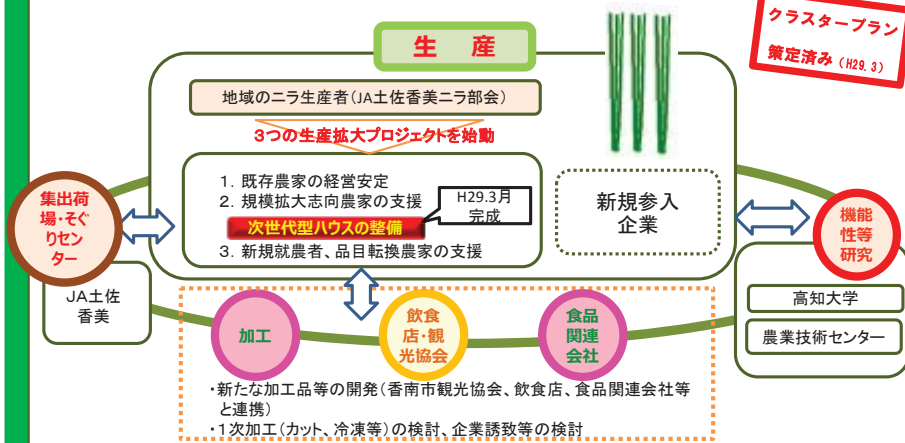
・JA出資型法人「南国スタイル」を中心として、「還元野菜（※）」の生産拡大を図るとともに、関連する直販所や農園レストラン等と連携した還元野菜販売や、メニュー提案等を実施することにより、還元野菜の里づくりを目指す。

（※）電解水素水を使って栽培した野菜のこと。電解水素水は、葉菜類で生育促進効果（収量5～20%UP）があり、さらに葉菜類、果菜類等で抗酸化機能等の機能性成分向上効果を確認



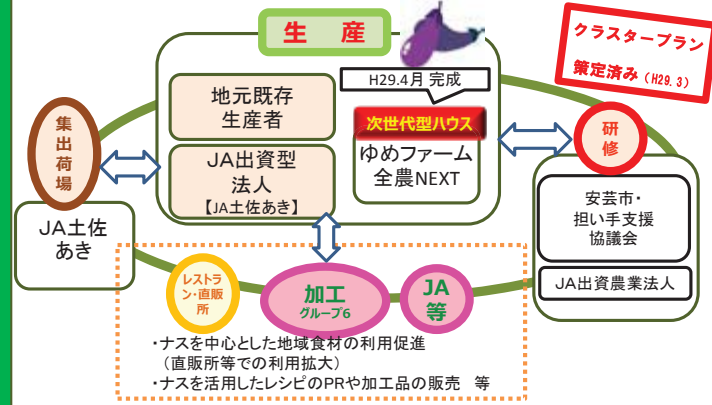
④ 日本一のニラ産地拡大プロジェクト（香南市・香美市）

・日本一の生産量を誇るJA土佐香美の生産拡大を目指し、3つの生産拡大プロジェクトに取り組むとともに、食品関連会社等の誘致を視野に入れた新たな加工品の開発、そぐりセンターの整備により、クラスターの形成を図る。



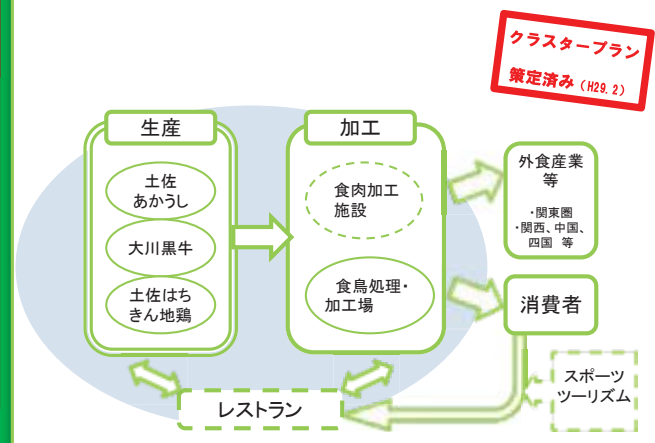
⑤ 日本一のナス産地拡大プロジェクト（安芸市）

・県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を図るとともに、地域の直販所や飲食店等での利用促進、ナス料理や加工・特産品の消費拡大に取り組むことにより、クラスターの形成を図る。



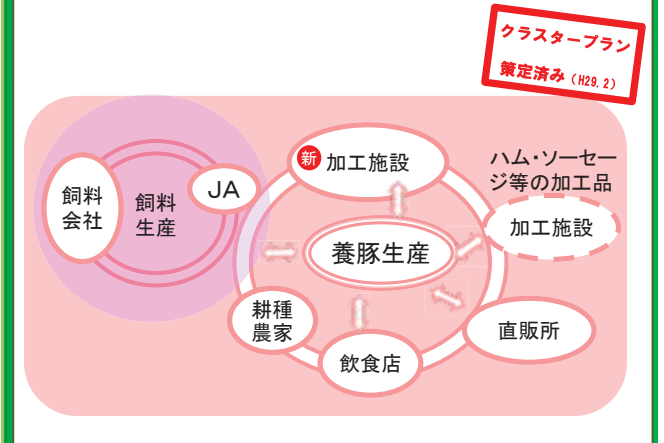
⑥ 嶺北畜産クラスターによる地域の活性化（嶺北地域全域）

・「土佐あかうし」「大川黒牛」「土佐はちきん地鶏」のさらなる生産拡大と6次産業化による付加価値の向上を図る。また、さめうら湖や山岳資源を活用したスポーツツーリズムにより観光振興・交流人口の拡大を図りながら、レストラン事業の展開も検討する。



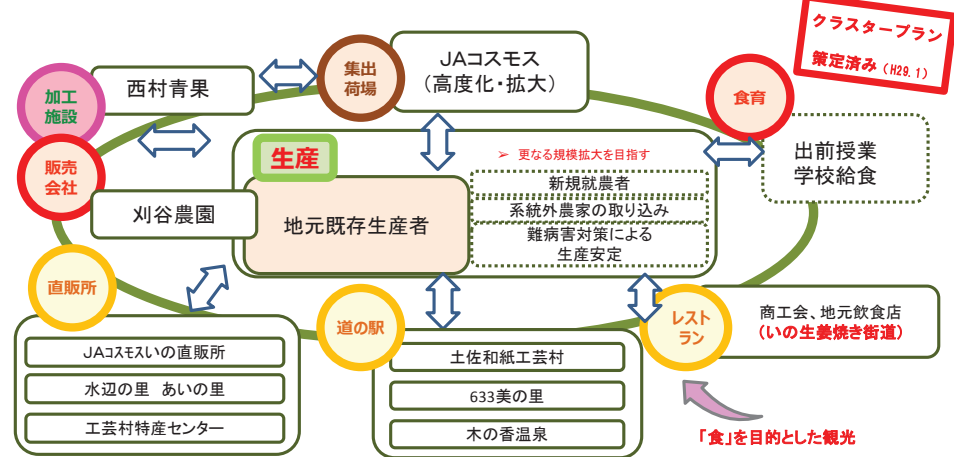
⑦ 四万十ポークブランド推進プロジェクト（四万十町）

・養豚農家の生産基盤の強化を図るとともに、関係機関が連携し安心安全な四万十ポークを消費者に安定供給できる体制を構築し、新たな6次産業化ビジネスの展開とあわせて地域の所得向上につなげる。



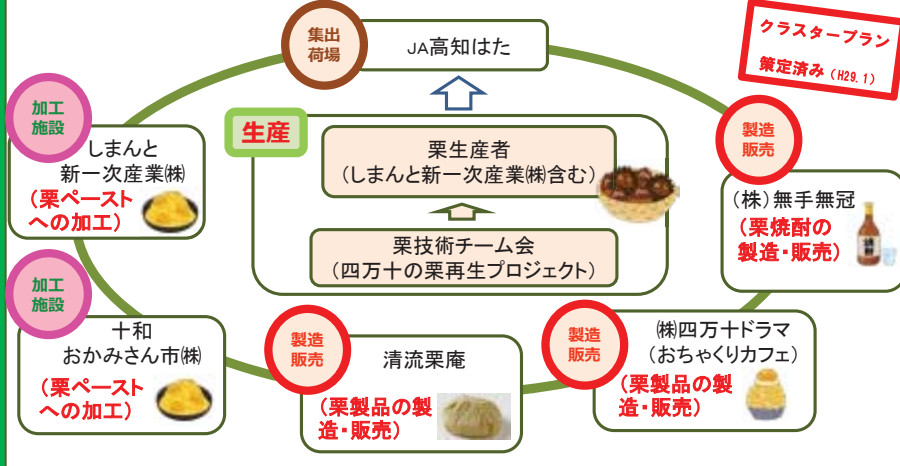
⑧ いの町生姜生産・販売拡大プロジェクト（いの町）

・いの町の生姜生産農家を中心として、生姜の集出荷場整備と併せ、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、クラスターの形成を図る。



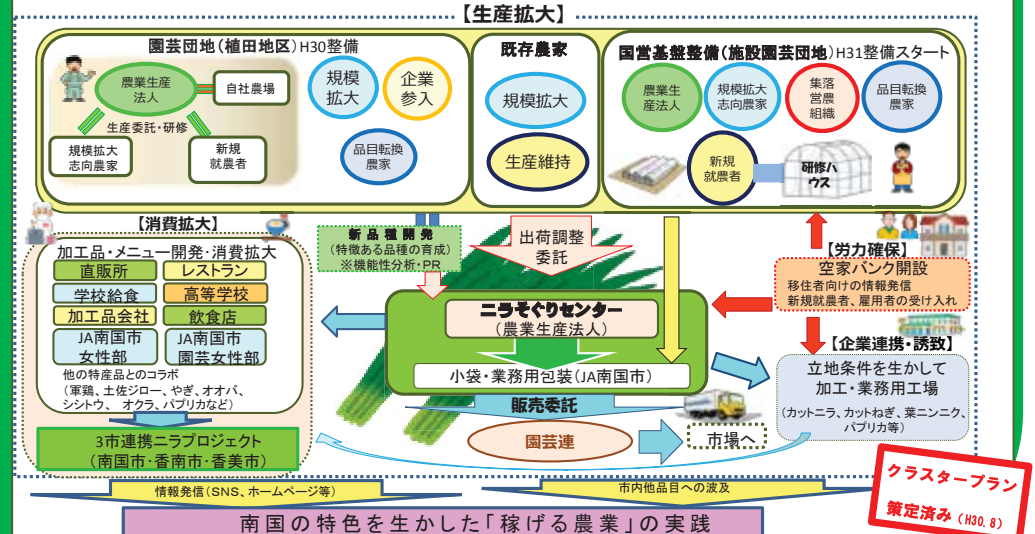
農業⑨ 四万十の栗プロジェクト（四万十町）

・四万十の栗再生プロジェクト協議会を中心として栗の生産拡大を図るとともに、ペースト加工施設、カフェ、栗焼酎販売会社等が連携し、クラスターの形成を図る。



農業⑩ 南国市農業クラスタープロジェクト（ニラ）

・農業生産法人が運営するそぐりセンターを活用し、地元農家や企業参入による生産拡大を図るとともに、直販所、レストラン、商工会等が連携し、クラスターの形成を図る。



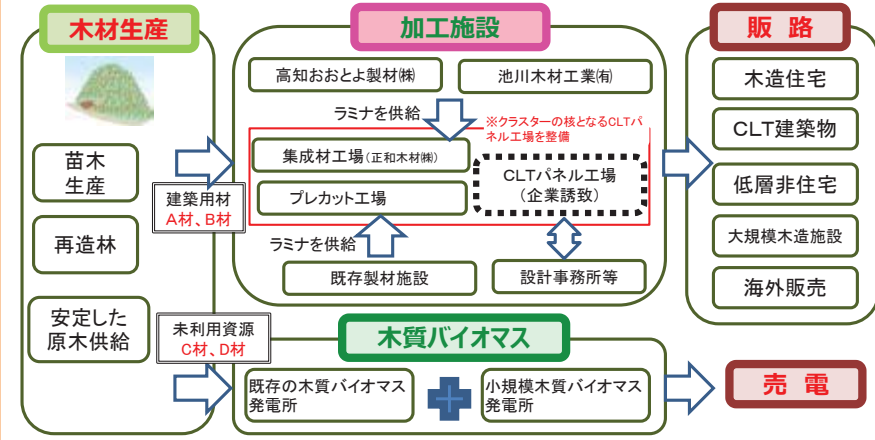
南国の特色を生かした「稼げる農業」の実践

地域産業クラスターの形成（展開図）②

【林業】

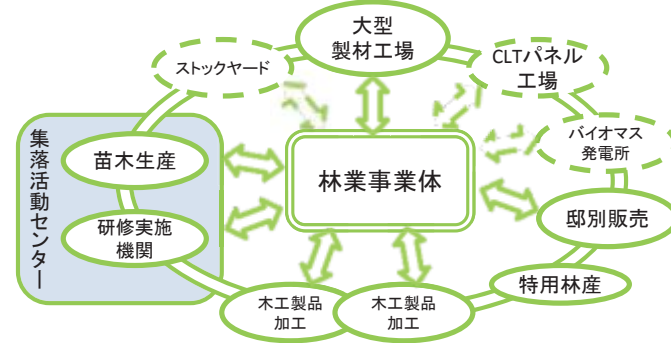
①林業・木材産業クラスタープロジェクト(県下一円)

・木材加工を核として、木材生産から販売・再生産までの好循環を生み出す。



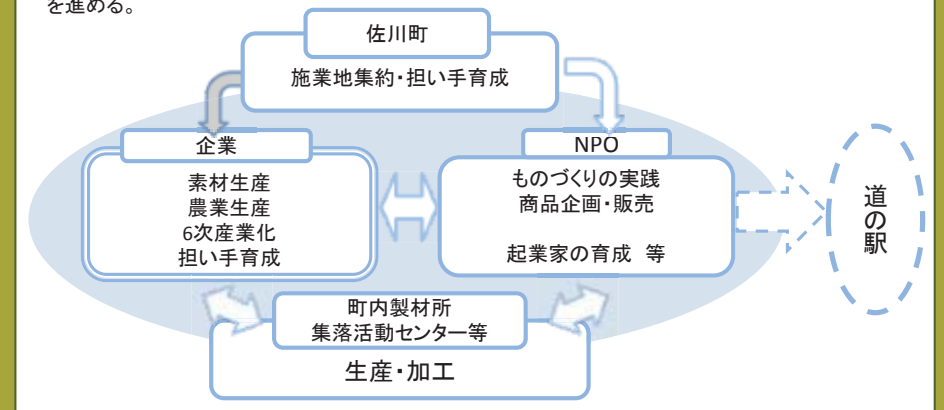
②嶺北地域の林業クラスターによる地域の活性化(嶺北地域全域)

・嶺北地域の豊富な森林資源を余すところなく活用し、地域経済の活性化につなげる。



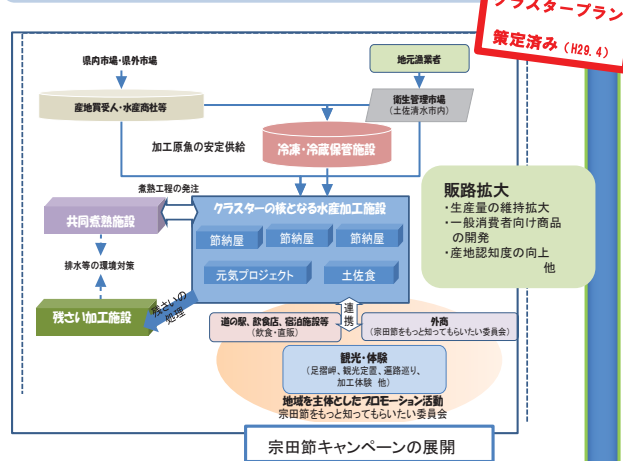
③佐川町で展開する自伐型林業での木材産業クラスター(佐川町)

・自伐型林業の取り組みを中心に、担い手の育成確保を含めた自伐型林業のビジネスモデルづくりのほか、町産材等を使ったモノづくりの人材育成や拠点整備、道の駅等の整備により町内の6次産業化を進める。

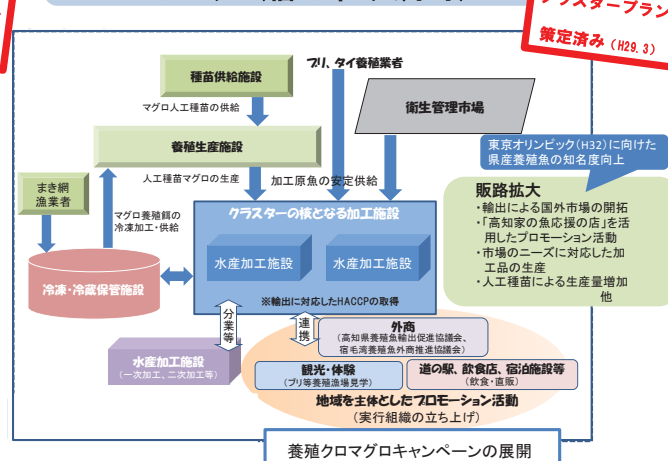


【水産】

①土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト(土佐清水市)

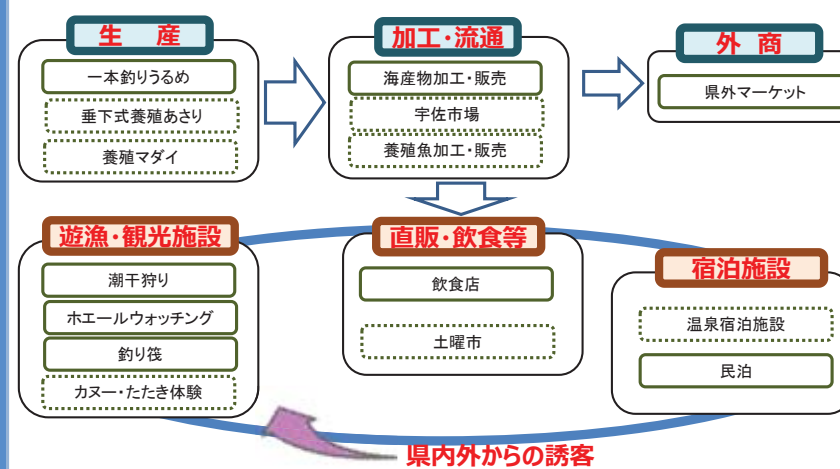


②宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト(宿毛市・大月町)



③佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト(土佐市・須崎市)

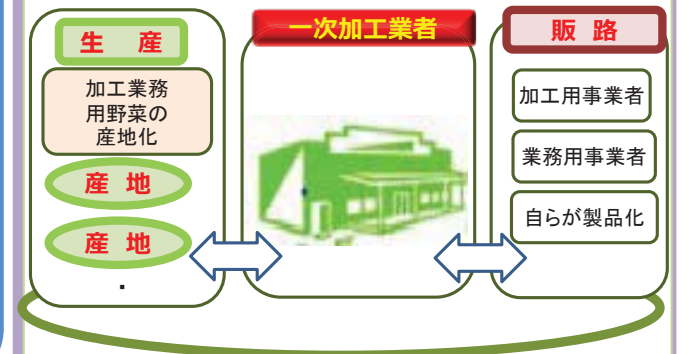
・うるめいわし、あさり、ブランド真鯛の水産資源を活用した飲食や加工業、ホエールウォッチング、釣り筏などの遊漁、周辺の宿泊施設等が連携してクラスターの形成を図る。



【食品加工】

①加工・業務用野菜の産地化プロジェクト(県下一円)

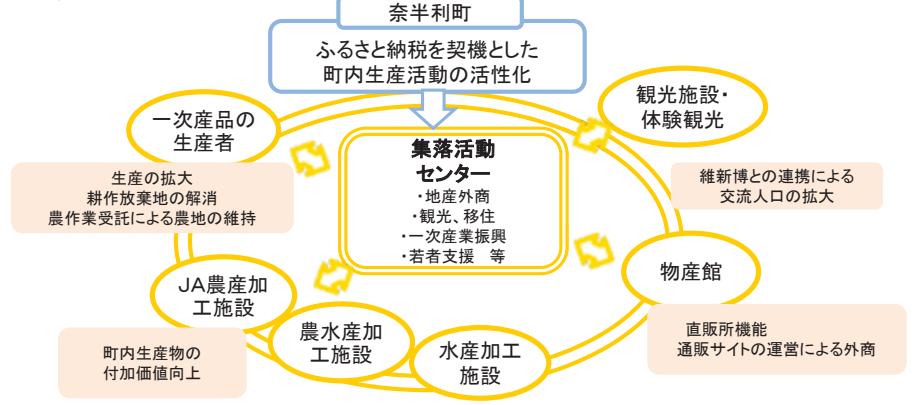
・需要が増加傾向にある「加工・業務用野菜」の産地化を進め、マーケットイン型の商品開発や「生産・加工・流通・販売」までの新たな仕組みの構築に取り組む。



【その他】

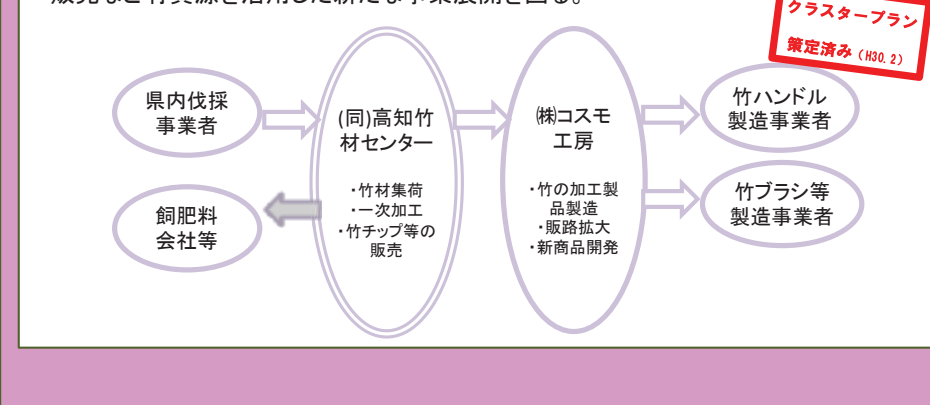
奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター(奈半利町)

・集落活動センターを拠点として、奈半利ブランドの確立と地域の所得向上につなげる。



竹資源の活用による中山間地域の新たな産業の創出(高知市)

・県産竹材を活用した製品加工の拡大とともに、竹材の集荷や一次加工、竹チップの販売など竹資源を活用した新たな事業展開を図る。



株式会社フードプラン、仁淀川町等を中心としたカット野菜事業クラスター(仁淀川町)

・新工場整備によって生産能力を向上させ、県外量販店等との取引拡大を図る。あわせて、流域食材のブランド化による観光振興、加工・業務用野菜の産地形成を推進する。

